

## 単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

- ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づく。
- ・身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づく。
- ・互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐ。

（学校図書館等の活用でつきたい力）

- ・たくさんの図鑑にふれ、いろいろな本があることを知る。
- ・図鑑を読み、上位語と下位語の関係を学び、語句を増やす。

## 本単元で育む主な情報活用能力

B-STEP 1, F-STEP 1

G-STEP 1, H-STEP 1

該当番号の詳細内容は

「大阪府情報活用能力

ステップシート」から確認できます。



## 単元における学習の展開（全6時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (1時間)	・学習課題を知り、活動の見通しをもつ。
第2次 (2時間)	・教材文を読み、一つ一つの名前とまとめてつけた名前があることを理解する。 ・身の回りにあるものの名前を出し合い、一つ一つの名前とまとめてつけた名前に整理する。
第3次 (3時間)	・グループを作り、お店屋さんごっこの準備をする。(☆) (本時) ・お店屋さんごっこを行い、学習をふり返る。

## 本時のねらい

- ・たくさんの図鑑を読み、いろいろな種類の本があることを知る。
- ・図鑑を読み、上位語と下位語の関係を理解しながら語句を増やす。

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (15分)	1. グループでいろいろな図鑑を読み、何屋さんにするかを決める。 ・グループで図鑑の置き場所を探す。 ・いろいろな図鑑を読み、何屋さんにするかを話し合う。	・調べ学習コーナーに図鑑が多いことや、分類ごとに本が並べられていることを伝える。 ・お店の内容が重ならないよう、グループごとの希望を板書しながらお店を決定する。
展開 (25分)	2. グループで図鑑を読み、お店にならべる商品の名前を選んで書く。 ・グループで図鑑を読み、下位語を学ぶ。 ・お店に並べる商品の名前（下位語）を選ぶ。 ・商品の名前と絵を画用紙にかく。	・図鑑には名前だけでなく、様々な情報が載っていることを伝える。 ・多くの人が知っている名前を選ぶように声をかける。
まとめ (5分)	3. 学習を振り返る。 ・グループで活動した感想を振り返る。 ・商品ができたなら、次はお店屋さんごっこの練習が必要であることを知る。	・楽しかったことだけでなく、うまくいかなかった意見も募り、どうすれば次はうまくいくかを考えさせる。 ・お店屋さんごっこをするにあたり、練習が必要であることを伝え、見通しをもたせる。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

国語力の素地として重要な語彙力を増やすことを目的に、たくさんの図鑑とふれる機会を作るため、今回の実践内容を考えた。お店屋さんごっこという楽しみながら取り組める活動の中で本と関わる時間を取り入れることで、意欲的に活動することができた。

学校図書館に親しむ姿もたくさん見られる学級だったので、分類ごとに本が並んでいることは分かっているようであった。おおまかな分類（植物、魚、乗り物など）を全体で確認することで、さらに目的の図鑑を探しやすくなっている様子であった。また図鑑の用意においては、文房具やインスタントラーメンなど、なるべく多岐に渡るジャンルの図鑑を取り揃えた。特に「食べ物」は身近なテーマであり、「おすし屋さん」「チョコレート屋さん」などのアイデアが出たため、たくさん揃えておくとよいだろう。

また下位語を選ぶ際には、多くの人が知っている、あるいは聞いて内容が分かるものにするよう伝えることで、みんなで楽しくお店屋さんができる環境を作った。



いろいろな図鑑を見る様子